　８　登校中に災害が発生した場合の避難訓練

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 訓　練　の　場　面　設　定 | | | |
| 災　　害 | 火災　地震　津波　土砂災害 | 避難場所 | 運動場　体育館　二次避難場所 |
| 時　　間 | 授業中　休み時間　登下校中 | 状　　況 | 停電　学校施設破損　負傷者あり　行方不明者あり |
| 場　　所 | 教室　特別教室　体育館　運動場　学校外 | そ の 他 |  |

ねらい

　　登校中に地震が発生した場合に、自分の身を守るための基本的な行動ができるかどうか、また、避難経路の安全を確認しながら、避難場所まで避難でき

るかどうかを検証する。

事前指導(○)・準備(●)のポイント

　○　防災教育テキスト等を活用して、地震発生のメカニズムや基本的な対応について学習する。

○　登下校中に、地震等突発的な自然災害が発生した場合は、落ち着いて、物が上から「落ちてこない」、横から「倒れてこない」「移動してこない」場所

を探し、体勢を低くして強い揺れが収まるのを待つこと。

　○　強い揺れが収まったら、予め決めていた避難場所に急いで避難すること。その際、周りの友達にも声をかけるなど、互いに協力して安全を確保するこ

と。

○　避難訓練当日は、行政無線等で地震発生を知らせる。今回の避難場所は□□と学校で、地震発生時に自分がいる場所から近い方に避難する。避難場所

へ移動する際は、交通安全に十分気をつけること。

●　児童生徒の避難訓練であると同時に、教職員の適切な指示訓練及び誘導訓練であるという意識をもつこと。

●　障害のある児童生徒一人ひとりに応じた対応方法について保護者と確認するとともに、全教職員で共通理解を図ること。

●　行政無線等の活用に当たっては、市町の行政機関に相談するとともに、事前に警察・消防・地域等に了解を得ること。

●　校外の避難場所については、予め１箇所に決めておくとともに、避難先と十分に連携を図ること。

●　通報訓練の実施について、事前に教育委員会へ連絡しておくこと。

訓練の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 状　　況 | 教職員の指示・行動等 | 児童生徒の行動 |
| ①教職員の配置  地震発生  ②安全確保  揺れが収まる  ③情報収集及び  避難場所の決定  ④避難  ⑤学校に移動  ⑥点呼  ⑦通報  ⑧役割分担の確認  ⑨指導講評 | ◇児童生徒の登校時、教職員は、避難行動の様子を確認するため、  通学路の予め決めておいたポイントに待機する。  ◇行政無線等で地震の発生を連絡  　「これから放送する内容は、△△学校の地震避難訓練です。  ただ今、緊急地震速報を受信しました。数秒後に強い地震が発  生します。」  ◇学校にいる教職員による状況確認及び情報収集  ・学校施設の破損、火災の発生等はないか  ・既に登校している児童生徒の状況確認  ・運動場に亀裂や液状化はないか  ・津波等二次災害の情報はないか　　　等  ◇登校している児童生徒の避難場所を運動場に決定する。  【校内】  ◇放送による避難指示  「強い揺れが収まりました。児童（生徒）・教職員は、周囲の状況に注意しながら、直ちに運動場に避難しなさい。なお、屋外を  移動する際は、できるだけ建物から離れて避難しなさい。」  ◇児童生徒の誘導  ・各所の教職員は、児童生徒を先導し、事前に定めている避難経  路に従って運動場に避難する。  　・職員室等にいる教職員は、避難経路の各所に立ち、児童生徒全  員が安全に避難したことを確認した後、自らも避難する。  　・教頭等は、ラジオや携帯サイトなどで情報収集をしながら避難  する。  【校外】  ◇①で配置された教職員は、校外の避難場所に移動し、避難してき  た児童生徒の対応に当たる。  ◇①で配置された教職員は、校外の避難場所の児童生徒を整列させ、  学校まで引率する。  ◇児童生徒を整列させ、点呼を取り、行方不明者及び負傷者の有無  を確認した上で、校長（教頭）に報告する。  ◇教頭等は、教育委員会へ児童生徒・教職員の避難状況等を報告する。  ◇教職員は集合し、登下校時に地震が発生した場合の役割分担を確  認する。  ◇校長等による指導講評を行う。 | ◇通常どおりに登校する。  ◇行政無線等を聞いたら、すぐに物が上から「落ちてこない」  横から「倒れてこない」「移動してこない」安全な場所を探し、体勢を低くし、持っている鞄などで頭を守り、揺れが収まる  のを待つ。  ◇約３分後に、自分がいる場所から近い避難場所（校外の避難場所または運動場）を自らの判断で選択する。  ◇教職員の指示に従い、「お・は・し・も」を守りながら運動  場に移動する。  ◇交通安全に気をつけながら、避難場所に移動する。  ◇小学校の場合、高学年の児童は、低学年の児童に「一緒に逃  げよう」等の声をかけ、必要に応じて手をつなぐなどして避  難場所に向かう。  ◇校外の避難場所に移動した児童生徒は、交通安全に気をつけ  ながら学校に移動する。  ◇学年・学級ごとに整列し、点呼に備える。  ◇指導講評を聞きながら、自分の避難行動について振り返る。 |

指導講評のポイント

○　地震は、いつどこで発生するか予測が難しい。また、地震発生時は、恐怖で混乱したり、体が動かなくなったりすることもあるため、実際に即した訓

練を繰り返し行う必要がある。

　○　登下校中など外にいるときに地震の揺れを感じたら、身の安全を確保するために、物が上から「 落ちてこない」横から「倒れてこない」「移動してこ

ない」場所を瞬時に見つけ、そこで体勢を低くし、鞄などで頭を守り、揺れが収まるのを待つこと。

　○　校外の避難場所等に避難する際、周りに小さい子や高齢者がいたら、自分の身の安全を確保した上で、手を引くなど協力して避難すること。